

2005年度 第2回特許セミナー

「知的財産、特許、産学連携」

開催日：2005年10月4日(火) 14:00～16:00

会場：青山学院大学 相模原キャンパス D棟407教室

会場案内図は青山学院大学 web サイトをご覧ください。

お車でのご来場はお断りします。

主催：青山学院大学総合研究所自然科学研究部

共 賛：青山学院大学理工学部

参加希望者は下記までご連絡お願いいたします。当日参加も歓迎いたします。

お問い合わせ先：青山学院大学 相模原事務局 研究支援ユニット

TEL：042-759-6056 (ダイヤルイン)

E-mail：sawabe@ee.aoyama.ac.jp

<プログラム>

司会：研究支援ユニット 小松 繁

14:00～

挨拶

総合研究所自然科学研究部長 降旗 千恵

14:05～

「研究開発の新しいパラダイム～知的資産のアウトカム理論～」

青山学院大学法学部・大学院ビジネス法務専攻 教授 菊池 純一

知的財産ということばが法制度化されて4年が経った。知財による価値創造のエコサイクルがこの国の中に作り出されつつある。研究開発のスタイルはどのように変わろうとしているのだろうか。その前に、多様な「知的資産」が研究開発の中から創出されている。まず、それを見つけ出すための能力を養成するにはどのようなことを学べば良いのかを事例を踏まえて説明する。そして、新しい研究開発のスタイルの基盤となっているアウトカム理論を用いて先端技術の方向性について語る。

14:40～

質疑応答

14 : 45～

「研究成果を特許出願するために」

特許庁総務部技術調査課 大学等支援室 月野 洋一郎

現在、大学には、従来の教育と学術研究の役割に加え、研究成果の普及と活用を図ることが求められている。大学の研究成果を有効に社会還元するためには、大学で生まれた革新的な発明を知的財産権として適切に権利化して管理するとともに、産業界での活用を促すことが必要である。この講義では研究成果を特許出願するにあたり、発明者や知財担当職員が知っておくべき事項、具体的には、特許制度の概要、学会発表と特許出願、明細書の書き方、先行技術文献調査等について説明する。

15 : 20～

質疑応答

15 : 25～

「TAMA-TLO の知的財産戦略」

TAMA-TLO(株)代表取締役 社長 井深 丹

TAMA-TLO は青山学院大学の研究成果の特許化を担当しているが、研究成果から発明考案提案書を作成していただく時のポイントを解説する。独創的な成果であること、製品化の可能性が高いことは重要であるが、製造ノウハウが明細書から読み取られない工夫が必要である。特許を基にした技術移転の手段として産学連携研究が行なわれるが、その例として青山学院大学も関係している、ものづくり革新コンソーシアム研究を紹介する。

16 : 00～

質疑応答

16 : 05～

閉会の挨拶

総合研究所自然科学研究部長 降旗 千恵